



県立知的特別支援学校 ～秋保地区平成36年4月開校へ～

県立特別支援学校の現状と課題

本県の特別支援学校の児童生徒数の推移をみても、平成18年度の1,907人から、平成28年度の2,461人へと、10年で3割増加している。その中でも、知的障害特別支援学校における児童生徒数は、最近10年間で40%増加しており、特に、仙台圏域においては、44%の増加となっている。また、本県においては、中学校の特別支援学級を卒業した生徒の9割以上が、特別支援学校の高等部又は高等学園に進学しており、特別支援学校の狭隘化が進む大きな要因になっており、この度、仙台圏域における特別支援学校の新設（太白区秋保町湯元）が下記のとおり整備が進められて参ります。

現状

平成29年7月から、旧拓桃医療療育センター及び拓桃支援学校跡地（太白区秋保町湯元）を建設予定地として準備を進めており、周辺の湯元地区連合町内会、秋保温泉旅館組合及び近隣住民の方々に説明を行ってきた他、施設整備に係る様々な事前手続きを進めているところであります。

今後

旧校舍等については、現在解体工事に着手し、平成30年9月末ごろには完了する見込みです。
また、4月から大規模事業評価を受け、平成31年度、設計に着手する予定であります。

県議会
2月定例会
一般質問にて

Q

平成29年6月定例会で、秋保地区に新設校を整備し、小学部から高等部を設置するほか高等学園機能についても検討する旨の答弁があった。
その後の検討状況と併せ、基本構想、規模、開校までのスケジュールについてどうか。

教育長
答弁

学校規模としては、現在の狭隘化の状況や将来の対象児童生徒数の見通し等を考慮し、小学部・中学部・高等部合わせて36学級程度とすることを検討しております。高等部については、普通科に加え、軽い知的障害のある生徒を対象とした、いわゆる高等学園機能を持った産業技術科を設置する方向で検討しており、地域資源の活用や地域連携を図りながら、実践的な職業教育を展開したいと考えております。

Point
Check

小

中高等部で210人の定員を設けるとしている。

○小学部は12学級54人

○中学部は6学級27人

○高等部は普通科を6学級33人

○高等学園は産業技術科を12学級96人

産

業技術科とは？

「ホテルビジネスコース」「流通サービスコース」「食品製造コース」「福祉コース」を想定しており、地域の地場産業をはじめ企業と学校との連携を生かした職業教育を中心とした教育課程を学び、将来は、ホテル・旅館業やビルメンテナンス業、福祉分野等への就職を視野に入れておる。

高

等学園とは？

軽い知的障害のある生徒を対象に社会的・職業的に自立が出来るよう生徒の特性に応じた適切な職業教育を行い、寄宿舎も学校内に整備をする。



- ★ 昭和47年9月4生まれ 乙女座 A型
- ★ 仙台市立八本松小学校卒業
仙台市立郡山中学校卒業
- ★ 宮城県仙台第一高等学校卒業（高43回）
- ★ 東北学院大学法学部卒業

- ★ 衆議院議員公設秘書
- ★ 宮城県議会議員選挙 当選（3期目）
会派／自由民主党・県民会議
- ★ 環境生活農林水産委員会（委員長）
いじめ・不登校等調査特別委員会

- ★ 宮城県私立幼稚園PTA連合会会長
仙台市早起野球協会副会長
八本松スポーツ少年団長 他
- ★ 家族は妻と長男・次男の4人

皆さまの『声』となり、『力』となって参ります。

Facebookページ
開設しております<https://www.facebook.com/sasakikoshi>

★是非 いいね! を押して下さい。

宮城県議会議員 佐々木幸士事務所
〒982-0031 仙台市太白区泉崎1-33-10-111
TEL: 304-5854 FAX: 304-5853
メール: post@sasakikoshi.com

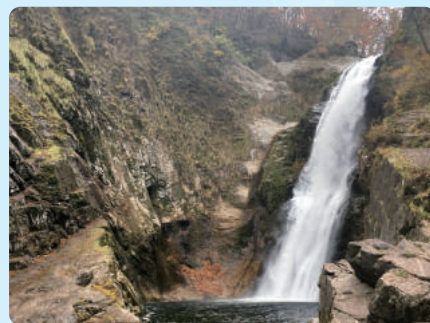
よろしく
お願い
します!!

『林道二口線』～平成31年夏頃開通へ～



● 林道二口線（宮城県側：約10km）の現状

太白区秋保町と山形市山寺を結ぶ林道二口線（約19km）には、日本三名瀑といわれる国指定名勝の「秋保大滝」や国指定天然記念物の「姉滝」、奇崖の「磐司」があり、魅力ある観光ルートであります。国からの地方創生道整備推進交付金を活用し、平成28、29年度の2年間で、下図のとおり、未舗装区間の舗装と法面改良工事が進められております。



林道二口線の工事状況



平成28年6月議会において、早ければ平成30年5月に開通見込みとの答弁であったが、改めて開通時期についてどうか。



村井知事 答弁

開通時期は、1年程ずれ込みまして平成31年夏頃の見通しであります。二口林道の整備に対する地元の期待も大きいことから、今後も財源確保と適切な施工管理に努め、早期に完成できるよう取り組んで参ります。



林

道二口線は、昭和40年に宮城・山形両県知事の会談で地元からの強い要望を踏まえて、昭和42年に工事に着手し、昭和48年に工事完了。その後、平成14年に落石等の危険性から「白糸の滝」付近に通行規制ゲートを設置し、県境までの区間を通行止めにしておりました。上図のとおり、B工区未舗装部分の事業費約7,000万円は、国への予算要求と工事発注を平成30年度に実施致します。そのため、この度、約2億9千万円の予算と事業期間約3年を経て、冬季期間は除きますが平成31年夏頃に全線開通となります。また、平成30年度仙台市当初予算の中でも、秋保大滝駐車場整備事業（約100台分）増加、磐司駐車場整備（約40台分）新設も可決され、更なる秋保地区の発展に繋がります。